

令和元年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【電気事業】

1 経営状況等

○事業実績

	平成30年度	令和元年度
供給電力量	495,715MWh	498,590MWh
料金収入	4,546百万円	4,804百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		平成30年度	令和元年度
収益的 収支	収入	4,728	4,982
	支出	3,566	3,609
	収支	1,162	1,373
資本的 収支	収入	1,190	743
	支出	2,704	2,507
	収支	△ 1,514	△ 1,764

2 経営指標

	平成30年度	令和元年度
① 経常収支比率	132.6%	138.0%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	404.4%	566.7%
④ 自己資本構成比率	84.0%	85.6%
⑤ 有形固定資産減価償却率	62.4%	64.5%
⑥ 企業債償還元金対減価償却比率	47.5%	43.7%

3 取組み状況

項目	令和元年度実績等
1 安定的収益の確保	
(1) 料金収入の安定的確保	・固定価格買取制度の適用を受けない15発電所の売電単価について、令和2・3年度分を8.89円/kWhとプラス12.1%の増額改定契約を締結
(2) 設備利用率の維持、向上	・水力発電所(小水力を含む)の設備利用率については昨年度と同等の39.7%(前年度39.7%)となった一方、太陽光発電の設備利用率は昨年度より日照時間が増加し、16.1%(前年度15.3%)となった。 ※設備利用率:年間発電電力量(kWh) / (設備容量(kW) × 年間時間数)
(3) コストの削減	・設備更新における新工法採用や工事仕様の見直しにより工事費削減 ・設備更新や修繕工事における機能・性能等の見直しにより維持管理費削減
(4) リパワリング	・国の補助事業を活用して小矢部川第二発電所の水車ランナの流れ解析を実施し、高効率水車ランナを発注、契約
2 電力システム改革を踏まえた電力供給のあり方	
新たな電力供給のあり方等の検討	・県営水力発電所によるクリーンな電力を活用した県民福祉の向上につながる新たな電力供給形態として、公営電気事業として全国初となる子育て支援事業「とやまっ子すくすく電気」を平成30年8月から実施
3 再生可能エネルギーの推進	
(1) 小水力発電等の推進	・リプレースの概略設計において、増出力・増電力量を検討
(2) 地熱発電の事業化	・立山温泉地域において、国の補助事業を活用して深さ約1600mの調査井を掘削し、地質調査および物理検層を実施
4 計画的な更新・修繕工事等の実施	
(1) 効率的な修繕の実施	・設備の機能診断調査(H29)の結果を踏まえ、効率的な修繕を実施
(2) リプレース(全面更新)	・リプレース優先候補の4発電所について、概略設計を実施 ・大長谷第二、仁歩、庄東第一の3発電所について、設計施工や運営管理への民間活力の活用可能性を調査
(3) 修繕費用の平準化	・計画に基づき庄東第二発電所2号機細密点検を実施 ・設備の機能診断調査(H29)の結果を踏まえた水力発電設備修繕(長寿命化)計画(ダム・水路工作物編)策定
5 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・クレーン運転士、高圧・特別高圧電気取扱者、危険物取扱主任など電気事業に必要な資格取得に努めるほか、水力発電に関する研修、電気関連法規や電気設備に関する講習の受講を推進

令和元年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【水道事業】

1 経営状況等

○事業実績

	平成30年度	令和元年度
契約水量	39,010千m ³	39,118千m ³
料金収入	1,630百万円	1,622百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		平成30年度	令和元年度
収益的 収支	収入	1,748	1,738
	支出	1,434	1,454
	収支	314	284
資本的 収支	収入	373	278
	支出	1,284	1,026
	収支	△ 911	△ 748

2 経営指標

	平成30年度	令和元年度
① 経常収支比率	121.9%	119.5%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	352.3%	372.1%
④ 自己資本構成比率	73.1%	73.6%
⑤ 企業債残高対給水収益比率	266.3%	250.1%
⑥ 料金回収率	121.3%	118.9%
⑦ 給水原価	38.9円	42.7円
⑧ 施設利用率	70.4%	68.9%
⑨ 有収率	100.0%	100.0%
⑩ 有形固定資産減価償却率	61.6%	63.0%
⑪ 管路経年化率	92.3%	93.7%

3 取組み状況

項目	令和元年度実績等
1 安全・安心な水道用水の安定供給	
(1) 水安全計画の策定	・平成29年3月に「西部水道用水供給事業 水安全計画」を策定済みであり、この計画のもと、水質の管理、施設の点検、教育訓練、研修等を実施
(2) 事故発生時の対応	・令和元年10月、大雨による高濁度流入を想定した危機管理対応訓練を受水団体、関係機関と合同で実施 ・令和元年11月、子撫川浄水場において水質悪化(塩素消費増)が発生、緊急対応した。
2 施設の耐震・老朽化対策	
施設の耐震・老朽化対策の計画的な実施	・平成27年度から約40年間で全ての管路を計画的に更新していく予定としており、令和元年度は高岡市東海老坂地内の管路更新工事を実施
3 将来の施設更新に必要な料金収入の確保	
(1) 料金収入の確保	・令和元年度の料金収入は1,622百万円(前年度比△8百万円)となった ・平成30年度から令和4年度までの5年間の受給協定を締結(給水単価据置き65円/m ³ 、基本水量を6%減量)
(2) 水道事業ビジョンの策定	・中長期的な視点に立つ戦略的な計画として、「持続」「安全」「強靱」の観点から、平成30年3月に「西部水道用供給事業 水道事業ビジョン」を策定済
(3) コストの削減	・和田川浄水場、子撫川浄水場の、電気機械設備の更新に合わせて、省エネ型のモーターや変圧器への更新を実施。また、中央監視制御装置において生産中止基板を事前に購入することで装置の延命化を図った。
4 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・厚生労働省や日本水道協会が主催する技術研修に参加
5 未活用資産の有効活用	
未活用資産の活用検討	・将来の水需要に対処するため確保してある水道用水源の有効活用に向けた検討や関係機関との協議を行った。

令和元年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【工業用水道事業】

1 経営状況等

○事業実績

		平成30年度	令和元年度
契約水量		79,007千m ³	78,014千m ³
料金収入		1,848百万円	1,821百万円
附帯事業	ゴルフ練習場	入場者数	51千人
		料金収入	50百万円
	神通川浄水場 太陽光発電	供給電力量	2,422MWh
		料金収入	97百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		平成30年度	令和元年度
収益的収支	収入	2,160	2,145
	支出	1,498	1,364
	収支	662	781
資本的収支	収入	169	390
	支出	1,124	1,561
	収支	△ 955	△ 1,171

2 経営指標

	平成30年度	令和元年度
① 経常収支比率	144.2%	127.2%
② 累積欠損金比率	0.0%	0.0%
③ 流動比率	469.6%	409.0%
④ 自己資本構成比率	60.9%	61.5%
⑤ 企業債残高対給水収益比率	108.7%	113.0%
⑥ 料金回収率	169.7%	152.8%
⑦ 給水原価	15.5円	15.2円
⑧ 施設利用率	46.4%	44.7%
⑨ 有収率	100.0%	100.0%
⑩ 有形固定資産減価償却率	63.1%	64.4%
⑪ 企業債償還元金対減価償却比率	47.3%	39.7%

3 取組み状況

項目	令和元年度実績等
1 契約水量の確保	
(1) 契約水量の確保	・令和元年度の契約水量は78,014千m ³ (前年度比△993千m ³)となった
(2) 収入の確保と適正な料金水準	・令和元年度の料金収入は1,821百万円(前年度比△28百万円)となった
2 施設の耐震・老朽化対策	
(1) 施設の耐震化	・平成30年度で全8箇所実施済み
(2) 管路の更新	・平成28年度から西部工業用水道の管路更新を実施しており、令和元年度は射水市作道及び七美～加茂中部で管路更新工事を実施
3 低廉で安定的な工業用水の供給	
(1) 低廉な工業用水の供給	・和田川浄水場の電気機械設備の更新に合わせて、省エネ型のモータ・変圧器への更新や鋼管からステンレス管への更新を実施。また、中央監視制御装置において生産中止基板を事前に購入することで装置の延命化を図った。
(2) 事故発生時の対応	・令和元年度、配水管の漏水が3件発生、工水ユーザーへの迅速な対応と復旧を図った。
4 経営改善・健全化	
(1) 経営基盤の強化	・新規受水希望者と打合せを実施
(2) 他会計借入金残高の削減	・電気事業会計に142百万円、一般会計に100百万円を償還し、借入金残高を低減
5 人材の確保と育成	
人材の確保・育成・技術継承	・日本工業用水協会が主催する技術研修に参加

○附帯事業(ゴルフ練習場)

項目	令和元年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 指定管理者制度の継続	・平成24年度に導入した指定管理者制度を継続している。(H30～R4)
(2) 利用者の確保対策(利用の拡大とサービスの向上)	・早割割引、平日入場料無料、打ち放題の実施、プロによる無料レッスンなど、サービスの充実を図った
2 施設・設備の改修	
老朽化した施設・設備の適切な改修	・老朽化した空調設備の改修や集球機の更新等を実施した

○附帯事業(神通川浄水場太陽光発電)

項目	令和元年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 安定的な発電	・供給電力量は2,372MWh(前年度比△50MWh)、料金収入は95百万円(△2百万円)となった
(2) 維持管理費等の経費節減	・大規模な故障を未然に防ぐため、適切に維持管理を実施

令和元年度「富山県企業局経営戦略」の進捗状況等について【地域開発事業】（富山中央駐車場）

1 経営状況等

○事業実績

	平成30年度	令和元年度
利用台数	56千台	55千台
料金収入	62百万円	61百万円

○決算状況

(単位:百万円)

		平成30年度	令和元年度
収益的 収支	収入	63	63
	支出	36	36
	収支	27	27
資本的 収支	収入	0	0
	支出	49	48
	収支	△49	△48

2 経営指標

	平成30年度	令和元年度
① 経常収支比率	173.8%	174.0%
② 累積欠損比率	5,008.7%	4,991.9%
③ 流動比率	43.5%	37.2%
④ 自己資本構成比率	△1,646.3%	△1,867.0%

3 取組み状況

項目	令和元年度実績等
1 収入の確保と経営の安定	
(1) 駐車場における指定管理者制度の継続	・平成24年度に導入した指定管理者制度を継続している。(H30～R4)
(2) 利用者の確保	・利用者の要望を把握するとともに、ホームページによる情報提供や、近隣施設との連携等を行い、サービスの充実に努めた
(3) 累積債務(旧スキー場事業)の計画的な償還	・企業局負担約24.4億円のうち、令和元年度末までに約19.7億円を処理し、令和2年度以降の償還予定額は約4.8億円となった ・引き続き、駐車場事業で安定的な収入を確保し、累積債務の計画的な償還に努める
2 施設・設備の適切な維持・改修等	
施設・設備の適切な維持・改修等	・施設の状況や費用対効果も考慮し、安全かつ安定的なサービス提供のため、事前精算機の更新等の必要な維持・改修を実施

【参考】各事業における主な経営指標の算出方法等

経営指標	算出方法	指標の意味	電気	水道	工水	地域
経常収支比率	$= (\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用})$	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表す指標	○	○	○	○
累積欠損金比率	$= \text{累積欠損金} / (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})$	営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標	○	○	○	○
流動比率	$= \text{流動資産} / \text{流動負債}$	流動負債に対する流動資産の割合から短期債務に対する支払能力を表す指標	○	○	○	○
自己資本構成比率	$= (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}) / \text{負債} \cdot \text{資本合計}$	総資本に対する自己資本の割合で、資本構造の健全性・事業の安全性を表す指標	○	○	○	○
企業債残高対給水収益比率	$= \text{企業債残高} / \text{給水収益}$	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標		○	○	
料金回収率	$= \text{供給単価} / \text{給水原価}$	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄われているかを表す指標		○	○	
給水原価	$= \{ (\text{営業費用} + \text{営業外費用}) - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費}) - \text{長期前受金戻入} \} / \text{年間総有収水量}$	有収水量1m ³ あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標		○	○	
施設利用率	$= \text{一日平均配水量} / \text{一日配水能力}$	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合で、施設の利用状況等を判断する指標		○	○	
有収率	$= \text{年間総有収水量} / \text{年間総配水量}$	施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標		○	○	